

研修プログラム

はじめに



私たち自治医科大学附属さいたま医療センター集中治療部は、急性期で広く活躍できる総合医を育成することを目標にしています。研修を受ける本人と相談しながらテーラーメイドの研修プログラムを作成し、経験豊富な指導医のもと、自施設だけでなく国内外の施設で多様かつ豊富な症例を経験し、最高のトレーニングが受けられる環境を提供します。その過程で、臨床研究データや生理・薬理に基づく説得力のあるディスカッションができ、意思決定ができるようになることを最大の目標にする一方、重症患者を救命するための実践的な技術や判断力も養います。研修終了後には、真の実力を備えた急性期重症患者総合医になることができるでしょう。

当施設研修の特徴



当施設は、国内でも指折りの心臓血管外科センターとして年間 500 件以上の開心術を行っています。このような心臓血管外科周術期症例は、集中治療部医師が ICU 入室から退室まで術前・術後を、多様な循環器系

疾患を学ぶことが可能です。また、気管切開、各種ドレーン挿入、ECMO の導入・管理を含め、ICU で必要なほとんどの侵襲的手技を我々のチームが行うので、十分な経験をつむことができますでしょう。

その他、ICU に入室する患者さんの約 2 割は内科的な疾患で、敗血症を筆頭に造血幹細胞移植後の多臓器不全などの多彩な病態を経験することが可能です。現在のメンバーのバックグラウンドは、麻酔、救急、総合内科、循環器科、血液科、外科など多様で、相互に不得意な分野を補いながら急性期総合医療チームとしての機能を最大限に高めています。

また、平成 28 年 4 月 1 日には、埼玉県で 8 番目の救命救急センターを開設し、3 次救急症例も経験することができる体制となりました。ICU・CCU のべ 20 床で構成される現在の集中治療部は平成 29 年には 30 床に増床予定で、今後ますます多くの症例を経験できる体制となります。

大学附属病院でありながら臨床が重視され、各科間の協力体制も良好です。また、M&M (morbidity & mortality)カンファレンス、RST (respiratory support team)、RRS (rapid response system) など、院内横断的に多科・多職種が関わる活動が盛んで、我々のメンバーがその中心的な役割を果たしています。

研修の過程で、希望者には単施設・[多施設臨床研究](#)や基礎研究を計画・実践し、成果を国際学会や国際雑誌で発表する能力を養い、学位取得をサポートします。

[国内外の他施設での研修を積極的に推奨しています。](#)

研修プログラム

救急科コース



主として当センター救急科における研修

を中心に、他施設での短期・長期研修を含めた救急・集中初療研修、当センター集中治療部での研修を行い、まず救急科専門医の取得をめざし、その後に集中治療専門医を目指すコースです。

当センター救急部では、敗血症、脳卒中、循環器疾患を中心に、各種の二次、三次の急性疾患の初療を幅広く学ぶことができます。また、希望に応じて他施設の救命センター等で研修を行うことも可能です。

麻酔科コース

主として当センター手術室における研修を中心に、他施設での研修を含めた各科麻酔の研修、当センター集中治療部での研修を行い、最初に麻酔科専門医の取得をめざします。その後に集中治療専門医を目指します。

内科系コース

当センター[内科系シニアレジデントプログラム](#)に従い、総合内科専門医の取得をめざします。その後に集中治療を目指します。

集中治療研修コース

すでに何らかの専門医を取得し、集中治療専門医を取得するために1年以上の研修を希望する方のコースです。

基礎専門医資格部分他科研修コース

集中治療専門医は指定された学会の専門医資格が必須となります。そのため、主として当センターにおいて、内科系、外科系の各科、小児科などの各科専門医研修を行い、希望の1階部分の専門医資格を得た上で集中治療専門医を目指すコースです。各専門診療科と協力しながら最適な研修プログラムを提供します。

短期研修・見学

1～6ヶ月程度 of 他施設からの短期研修や、見学を随時受け入れておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、当センター内での他科ローテート研修も積極的に奨励しています。

研修の実際

ICU 教育的回診



AM 7:45 モーニングレポート: 前夜当直医からの簡単な申し送り。当直中に生じた疑問に関して当直医が10分程度の「ミニレクチャー」を行い、知識の共有を図っています。

AM 8:30-11:30 モーニングラウンド: 各患者のレジデント、フェローがベッドサイドでプレゼンテーションを行い、臨床研究データ、生理学、薬理学をベースに患者の病態に関して十分時間をかけたディスカッションを行い、治療方針を決定します。

指導医によるベッドサイド・ティーチングにより、“生きた知識”を身につけることができます

カンファレンス、レクチャー

研修医レクチャー:週 1 回

当科レジデントやフェローが初期研修医に向けてベーシックなレクチャーを行います。

ジャーナルクラブ:毎週金曜日

集中治療医として知っておかなければいけないランドマーク研究や、議論の多い研究を中心に批判的な吟味を行い、ディスカッションを行います。

症例検討会(英語):毎週火曜日

Alan T Lefor 教授(米国外科専門医)をお招きして、ケースカンファレンスを行います。

Fujimoto 教授とのジャーナルクラブ(英語):2 か月おきに 2 週間滞在

Wilfred Fujimoto 客員教授(米国内分泌代謝専門医)をお招きして、ジャーナルクラブを行います。

M&M カンファレンス:月に 1~2 回

ICU 関連の重大事象を対象に随時開かれます。多職種、多科が集合して開催される場合も多く、外科系診療科全体で毎月第 3 火曜日に行うものもあります。

リサーチ・カンファレンス:月 1~2 回

進行中の臨床研究について各メンバーが讃井教授と 1 対 1 でミーティングを行い、進行状況をチェックします。また、多施設研究を主導したり、他施設研究のデータ収集に積極的に協力しています。

グラウンドラウンド:月 2 回

その分野の国内外のエキスパートである外部講師や、当センター指導医による教育的なレクチャーが開催されます。同時に、科・部合同の M&M カンファレンスやリサーチ・カンファレンスを行っています